

第1回 県庁舎等再整備基本計画検討委員会 議事要旨

- 1 日 時 令和元年11月18日(月)13時00分～14時00分
- 2 場 所 神戸市教育会館5階501号室
- 3 出席者 別紙参照
- 4 主な意見

※ 開会、あいさつ、委員紹介、資料の説明については省略するとともに、各委員等の発言内容は一部要約しています。

<資料1について>

- | | |
|---------|--|
| (委 員) | <p>外部空間や景観の観点で、3点ほどコメントしたい。</p> <p>1点目は、「Ⅱ 県庁舎ゾーン再整備計画」中の「1 建物配置・空間構成の考え方」に、外部空間をどうするかについての記載を加えて頂きたい。</p> <p>2点目は、「Ⅲ にぎわい交流ゾーン整備計画」中の「1 2号館及び県民会館跡の整備の考え方」についても、やはり外部空間をどうするのかが気になる。海外では外部空間のエリアマネジメントも進んでいる。内部空間も含めたトータルなエリアマネジメントという概念を取り入れてはどうか。</p> <p>3点目は、「Ⅳ 景観形成の方針」について、ランドスケープデザインや植栽計画についても配慮してほしい。</p> |
| (委 員) | <p>この場所は丘陵地なので、高低差の扱いに対しての配慮が必要である。</p> <p>また、県公館等の歴史的建造物との調和の観点から、整備される建築物に昔の県庁舎のモチーフを再現するというような事も考えられる。少し間違えるとキッチュ(俗悪なもの)になるが、歴史的建造物との関係性について議論があっても良いと思う。</p> |
| (委 員 長) | <p>今の指摘の1点目は、「Ⅱ 県庁舎ゾーン再整備計画」中の「1 建物配置・空間構成の考え方」にある敷地条件等の整理で記載されることになると思う。この場所は複雑な起伏を持つ地形となっているので、そのあたりに留意する必要がある。</p> <p>2点目の指摘については景観形成の問題とも関係するが、建築空間デザインの考え方については、現在の基本計画段階で決定するのではなくて、次の基本設計段階へどういう形で申し送っていくかが大事である。その点に留意しながら、次の段階での良い提案を損なうことのないよう、あまり前のめりにならないように、かつ的確に記載する必要がある。</p> |
| (委 員) | <p>都市デザインの視点から3点ほど申し上げたい。</p> <p>まず、都市の中で中心性を持っていたこの地域が再生されることにより、神戸市の中でどのような役割をこれから担っていくのか、他の場所との関係性を打ち出すことができれば良いと思う。</p> <p>次に、にぎわい交流ゾーンの中で、人や様々な物の動線が検討されるわけだが、内と外との関係性をしっかり考えることが大切だと思う。単なる人の動線だけではなく、歩行者がどのような風景をシークエンスとして体</p> |

験するかを検討し、見え方についての変化、期待性や開放感など、景観の物語を主張できれば良いと思う。今回の整備では、平面的な空間だけではなく立体的な空間の豊かさが出てくる、ぜひ三次元的に、その魅力を打ち出して頂きたい。

最後に、求められる性能や水準は当然確保されるべきだが、建物は建築後、更新や手入れがなされて価値化されていく。そのためには、単に経済性や効率性だけではなく、この建物に魂とか命が与えられ生き続けるための新しい将来の価値観を主張する必要があると思う。県公館も建設時に将来を夢見て作られた。今回の整備でも、長きにわたって新庁舎がその役割を担うことになる。そういった将来に繋がる価値観をしっかりと共有してもらいたい。

(委員) 三宮では、図書館、ホール、ホテル、業務施設及びバスターミナルからなる施設が2026年頃に完成を予定している。にぎわい交流ゾーン整備については、役割分担をよく整理することが必要である。

「2 歩行者空間計画」のJR元町駅西口からのバリアフリー動線計画案については、ここで示された案の内容は実現させる前提だと認識すれば良いのか。

(委員) 実現するか否かは、費用によると思う。予算も含めて実現可能か否か、またどこまでできるかについては、これから議論することになる。JR元町駅から県庁まで地下通路を作るのか、あるいは動く歩道形式にするのか、駅の近くにエスカレーターを作りその先を回廊とするのかなど、色々な考え方があると思う。

(委員) JR元町駅西口のバリアフリー化については、モトコーの再整備を進めているところなので、それとうまく連動することを視野に入れて、どのようにすれば実現可能かを、県・市・JRで一緒に検討していきたい。

(委員) 三宮～元町～神戸のより広い範囲における、にぎわい創出のあり方を、関係者と調整しながら検討していただきたい。

もう1点、「Ⅱ 県庁舎ゾーン再整備計画」中の「3 機能別整備方針」における、執務環境コンセプトについては、デジタル技術が急速に進展していく中で、エストニア共和国のようにほとんどのサービスがインターネット上でできる環境になりつつある先進例もあるので、ぜひ世の中の流れに合うフレキシビリティのある執務環境の整備をお願いしたい。

(委員) 三宮や元町など都心全体のにぎわいを創っていく中で、県と神戸市と一緒に、役割分担をどうするのか等を含めて今後協議していきたい。

(委員) 昨年度から議論してきた中で、ビジョンや方向性は基本構想として一旦まとまったと認識している。

私が最も問題意識を持っていることは、大阪には人が集まるが、神戸には夜の賑わいも含めて、人が集まらないことである。

大阪あるいは首都圏ではなく、神戸・阪神間に人の集まるようなビジネスチャンス、居住空間や観光も含めた人の移動も考えながら、様々な要素を予算の範囲内で検討することになる。

今後、三宮も含めて、10年ほどかけて大きな開発を進めることとなるので、兵庫県再生のラストチャンスとなる事業だという認識で計画を検討

頂ければと思う。

また、神戸にはランドマークが無いと思っている。例えば東京タワーのように、元町駅からはもちろん、三宮駅から見える象徴的な外観を計画すれば、人も集まりやすいと思う。

<資料2について>

- (委 員) 専門部会では、プロポーザルにより選定した県庁舎等再整備基本計画策定支援業務の受託者はどのような形で関わっていくのか。
- (事 務 局) 専門部会では、事務局だけではなく受託者も一緒に議論していきたいと考えている。
- (委 員 長) 通例こういった委員会の中に少人数の部会を設ける場合には、全体委員会の原案策定委員会のような性格を持つことが多いが、今回の専門部会については、あくまで専門的・技術的な事柄についてのアドバイスを様々な視点から受けることを目的としている。
- 結論を出すことや結論への方向性を固めていくことが目的ではなく、そういった趣旨から専門部会を非公開としたい、という受け止め方で良いか。
- (事 務 局) そのとおり。
- (委 員 長) 確かに、あまり専門的なことを検討委員会で議論すると、肝心の方向性を決める議論ができなくなってしまうことになる。今回のスケジュールの中で効率的に検討委員会を運用する上で、事務局としてそのように考えている、ということである。特に専門部会委員以外の検討委員会委員の皆様には、この趣旨をご理解頂きたいと思う。
- (各 委 員) 異議なし。